

# シンポジウム ストップTPPの富山で共感広がる

**明るい小矢部**

No.181  
2013年11月号

発行  
日本共産党  
小矢部市委員会  
小矢部市七社 245  
砂田喜昭  
TEL 67-4322  
FAX 67-4842

新しい視点 展望しめす  
しんぶん赤旗  
日刊紙●月3,400円  
日曜版●月 800円

## 守るべきは国民の命、健康、財産

「**一番良い農産物は家族や地域のみんなに食べてもらいたい**」

小矢部市在住で約100haの専業農家、宇川純矢さん（JA富山県青壮年組織協議会会長も、ネリストとして発言し、参加者の共感を呼びました。宇川さんの、共感を呼んだ発言を拾ってみます。

◇「守るべき『国益』は、国民の命であり、健康であり、財産です。」

◇「TPPに入るといふことは、福島の人たちに農業をあきらめなさいということ。日本人つて、そんなサイテーな人間になつたのか。自分さえよければ他人の人生を狂わすようなことを平気で……そんな残念な国になつたのか！」

◇「自民党は『攻めの農業』と言うが、ほんとうにいいもの（農産物）は、『金になるから海外に持って行けばよい』という考え方が大嫌い。いちばんいいものは、家族に、地域のみんなに、日本人に食べてもらいたい。」



シンポジウムで発言する宇川さんら＝10月14日、富山市

◇「アベノミクスで、貧困層をたくさんつくり、一部に大金持ち

## アウトレットパークに44億円

「ほんとうに30年も営業するのかわ？」

8月臨時議会

小矢部市議会は8月23日、臨時議会を開き、アウトレットパーク用地造成工事に13億9000万円、用地取得に9億125万円（+30年分の利子を支出すること）を議決しました。用地内にある工場の移転補償費は別途8億1861万円も支出します。これらの経費に関連公共事業や畠中排水路の追加工事などを合わせると総額約44億円の支出で、市一般会計の3分の1にも

をつくらせて、自分たちが汗水たらして作った農産物は、金持ちしか買えないのか？ 貧乏人には安い輸入農産物買えというのか。そんな人たちは、オレが作ったもの買ってほしくない！ 適正価格でみなさんに買っていただけるようがんばる。これからもTPP反

対運動でがんばる。」

……

このほか、パネリストとして富山協立病院院長の与島明美さん、新日本婦人の会の広瀬妙子さん、富山大学の酒井富夫教授が、それぞれの立場からTPPを止めさせようと訴えました。

### 桜井市長

### TPP交渉

妥協の動きばかりで、非常に不安不満だ

桜井市長は9月議会で砂田市議の質問に「きちんと情報が与えられない中でTPP交渉には納得できない。聞こえてくるのは妥協の動きばかりで、農林水産物5品目を関税撤廃の対象から外すのは難しいとの報道もあり、非常に不安・不満でもある。」と表明しました。

### 「TPP交渉に関する意見書」

県議会…全会一致で採択  
市議会…不採択

富山県議会は9月30日、「聖域を確保できない場合は交渉からの脱退も辞さない」とのTPP交渉に関する意見書を全会一致で採択しました。日本共産党が提案し、一部修正のうえ可決されたものです。

一方、小矢部市議会は同様の請願に対して、砂田市議は本会議で採択を主張しましたが、自民党所属議員らは討論もせずに対し、不採択にしました。

### 砂田市議の反対討論

### 前例のない企業誘致

小矢部市はこれまで北陸森紙業や立山アルミ、新日軽などの企業誘致をしてきたが、市が用地買収し造成して、貸すことはやったことがない。

三井不動産がこれまでの企業誘致と同様にこれらの費用を全部負担して、アウトレットパークをつくり、商売をして稼ぐ分には私は反対しない。

30年間営業しても経費の半分にしかならない

こんどの場合、この費用はいったん、小矢部市がすべて工面しなければならぬ。三井不動産が賃料を30年間にわたって払い続けたとしても、市として見込める収入は22億2500万円、かけた費用の半分だ。もし中途撤退という事態になればもつと市民の負担が増える。

さらに30年後にはこの用地をどこかの企業に6億3300万円でも売却できると見込んでいるが、30年後にどうなるか、これに責任を持つてる人はこの議場にいないのではないか。

**ひろば**

藤原紀香が「特定秘密保護法案」に反対を表明したと聞いて、本人のオフィシャルサイトを覗いてみた。9月13日のブログ

に「秘密保全法案って？」とあり、「国がこの案件は国家機密である」と決めたことに関しては、国民には全く知らされないことになり、放射能汚染、被爆などのことや、他に、もし国に都合よく隠したい問題があつて、それが適用されれば、私たちは知るすべもなく、しかも真実をネットなどに書いた人は罰せられてしまう……とても不安です。」

▼この後、公安警察が彼女の背景を捜査したとあつた。田原総一郎もブログで秘密保護法は「危険な法律」と書いているが、何が秘密かは誰も知らない、現場の警察官も知らない、警察が「これは秘密保護法に抵触する」と判断すれば捜査することになる▼さらに恐ろしいことに、国会議員が衆院安全保障委の「秘密会」で知った情報、是非を専門家に相談したら、懲役刑になる。「秘密会」を開かないと、政府は国会に何も報告しないので済む。日本は「三権分立」の民主主義国で、国会は国権の最高機関だと習ったが、これが通ると、戦前日本のように「大本営」発表がまかり通り、政府に都合の悪いことは隠される▼世論調査では、ここにかけて国民は過半数が「反対」

「国会にこだわらず、慎重審議を」が82%となつてきた。ぜひとも世論に影響を与えたのだろう。彼女の勇気を称えたい。このブログに15万人以上が「いいね」を押していたが、私もその一人となつた。